**その他の見どころ**

城の恩人の肖像画

市川量造と小林有也の2人の松本市民が、松本城の破壊を防ぐために資金調達を行ったのを顕彰した肖像のブロンズレリーフである。

市川量造(1844-1908)

左の写真の市川量造は、松本町の下横田町の商人であり町政を担当した。1872年、松本城が国から競売にかけられ、取り壊されることがほぼ確実となったことを知った。これを阻止するため、市川は県知事に対して、本丸内で博覧会を開くことを強く願い出た。1873年、この陳情が認められ、同年から1876年までに、松本城で5回にわたる博覧会が開催され、1日に数千人の市民が訪れた日もあったという。市川の尽力により、松本城は取り壊しの危機を脱したのである。

小林有也(1855-1914)

右の写真の洋装の小林有也は、大阪南西部の武士の家に生まれた。東京で物理学を学んだ後、1885年に松本の県立中学の初代校長として赴任した。

20世紀に入ると、松本城は傾き始め、屋根の一部が崩れ落ちる危険性があった。市川の努力で取り壊しは免れたが、このままでは朽ち果ててしまうかもしれない。1901年、小林は「松本天守保存会」を設立し、全国で資金集めを開始した。その活動により、当時としては破格の2万円もの寄付金が集まり、大規模な修復を行うことができた。